

真室川町観光振興計画

人が輝き 町が輝き 未来が輝く まむろ川

“人と地域と自然が輝く協働のまちづくり”

平成27年 3月

山形県真室川町・真室川町観光物産協会

目次

I 計画の策定にあたって	1
1 計画の策定の趣旨	
2 計画の位置づけ	
3 計画の期間	
II 観光を取り巻く状況と本町観光の現状と課題	2
1 観光を取り巻く状況	
（1）余暇の過ごし方の多様化	
（2）少子高齢社会の到来	
（3）情報技術の進展	
（4）観光交流基盤の整備	
（5）広域観光の推進	
2 本町の観光の現状と課題	
（1）観光施設等入込数の動向と総括	
（2）本町観光の課題	
III 計画の基本理念と基本方針	4
1 基本理念	
2 基本方針	
（1）自然・文化資源を活用した観光・交流イベントの造成・情報発信	
（2）まむろ川温泉梅里苑を拠点とした交流	
（3）「真室川音頭」発祥地としてのイメージアップ	
3 観光振興計画の目標	
IV 主要施策の展開	7
（1）観光資源の発掘・磨き上げ	
（2）着地型観光の推進	
（3）最上地域独自の「観光キャンペーン」への参画	
V 主要施策における重点プログラム	9
①組織強化	
②観光振興	
③物産振興	

- ④地域間交流
- ⑤情報発信
- ⑥四季のイベント

VI 計画の実現のために 1 2

- 1 住民との連携と協働の強化
 - (1) 住民の役割
 - (2) 観光関連事業者の役割
 - (3) 真室川町観光物産協会の役割
 - (4) 真室川町の役割

- 2 具体的行動について
 - (1) 事業の具体的推進
 - (2) 進行管理の推進

【資料】 1 4

滞在型「まむろがわツアー」モデルコース

真室川町観光振興計画策定の経過

真室川町観光振興計画検討部会体制

I 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨

真室川町観光振興計画は、観光交流人口の拡大による観光部門からの地域振興を推進することを目的として、観光を取り巻く環境や社会情勢も大きく変化していることから、今後の動向を視野に入れながら、今般観光振興計画を新たに策定するものです。

今、観光を取り巻く環境は、旅行形態が団体型から個人型へシフトし、また、少子高齢化や若者の旅行離れなどにより全体のパイが縮小しており、より多くの来訪者に「選ばれる地域」となるためには、地域の観光資源を最大限に活用した魅力ある観光地づくりが重要となっている。

これまで、新しい地域資源の掘り起しによる地域活性化の芽も少しずつ出てきており、引き続き「人が輝き 町が輝き 未来が輝く」まむろ川となるような観光施策のあり方を明確にするため「真室川町観光振興計画」を策定します。

2 計画の位置づけ

本計画は、「第5次真室川町総合計画」・「真室川町総合計画前期基本計画」（計画期間：平成27年度まで）を上位計画として位置づけ、さらに、もがみ観光交流推進プランを参考とし、観光振興を基軸とした地域づくり、観て楽しめるまちづくりを総合的かつ計画的に実施するため、真室川町と真室川町観光物産協会が共同で「真室川町観光振興計画」を作成します。

3 計画の期間

平成26年度の策定とし、中短期的に実効性のある計画にするため、平成27年度から平成31年度までの「5年間」とし、適宜見直しを行うものとします。

Ⅱ 観光を取り巻く状況と本町観光の現状と課題

1 観光を取り巻く状況

(1) 余暇の過ごし方の多様化

21世紀は観光の時代と言われ、国内、海外旅行とも増加していますが、ライフスタイルや価値観の変化により、周遊型のスタイルから、「テーマ志向」、「地元との交流」、「滞在志向」に、団体旅行から個人や小グループ旅行へ移行しています。

(2) 少子高齢社会の到来

少子高齢化による定住人口の減少は、地域経済に大きな影響を及ぼすことが予想される中、少子化が進行しテーマパーク等の子供向け観光は衰退傾向にある半面、自由時間の多い高齢者が増え、観光客に占める割合が高くなっています。

(3) 情報技術の進展

パソコンや携帯電話を通じたネット環境の普及により、観光情報を容易に入手可能となりました。また、ブログに続いてツイッター等の情報ツールが発達し、観光情報発信における重要な手段となってきました。

(4) 観光交流基盤の整備

日本海東北自動車道の秋田・山形・新潟の県境区間について事業着手となり、高速交通網のミッシングリンクが解消されます。また、東北中央自動車道や地域高規格道路も着実に進捗しており、**鉄道**利用での交流のみならず、観光や交流を促す交通基盤は大きく整備されていきます。高速交通網の環境が変化し、魅力ある観光地づくりや広域観光ルートの開発は必要となっています。

(5) 広域観光の推進

東日本大震災での東北地域の風評被害による観光被害が言われる中、平成26年にJR東日本が山形県でデスティネーションキャンペーンが開催され、仙台圏・首都圏との広域連携での観光振興がより一層求められています。

2 本町の観光の現状と課題

(1) 観光施設等入込数の動向と総括

本県の観光者数は平成16年度をピークに減少傾向にありましたが、平成21年度には、「天地人」や「おくりびと」、高速道路のETC休日特別割引の効果等により、5年ぶりに前年度を上回りました。

その後、新庄最上地域全般にいえますが、平成23年度は前年度までの増加要因の平準化や3月に発生した東日本大震災の影響で減少しています。その後24年度、25年度は回復傾向にあるものの、震災前の水準には戻っていない状況です。しかし、東北全体が原発の風評被害により苦戦を強いられる中、本町はその影響が小さ

く、各施設の努力もあり減少傾向から脱却してきています。

入込数については、県内外別にみますと、県外客が増加傾向にある一方で、県内客は停滞傾向にあります。大型箱物施設の整備に頼るだけでなく、目標に向けて受け入れ態勢の整備や着地型旅行などの小規模な誘客事業も実施し、地域の活性化につなげることが重要です。

平成25年度の最上地域の観光者数は256万6千人となり、前年度と比較し34万1千人、15.1%の増となっています。月別の観光動向を見ますと、8月をピークに、5月、6月、10月の入込みが高く、11月以降の冬季間の入込みが少ない状況にあります。降雪時期である冬季間の集客が大きな課題となっています。

(2) 本町観光の課題

大きな観光資源を有していない本町は、これまで有効に活用されてこなかった地域資源を掘り起こし磨き上げる、あるいは観光資源に少し物語を加え、光を当てることに取り組んできましたが、まだまだスタートしたばかりで十分ではありません。引き続き取り組んでいき、携わる人や地域の特性を反映させた地域資源の発掘で新たな誘客と地域活性化に結び付けていかなければなりません。

また、東北中央自動車道等高速交通網が整備され、ネット環境が飛躍的に進歩する中、いかに真室川町に目を向けていただくか。いかに真室川町らしさを演出し他との差別化を図るか。引き続き“通過されてしまう町”から最上の奥座敷としての“滞在・交流する町”へ転換することが課題となっています。

インターネットの急速な普及により観光情報を収集する環境が大きく変化しています。誘客対象の属性・ニーズに応じたメディアの選択など効果的な情報発信手法の再構築が必要となっています。

最上地域全般として、独自にイベントを開催するなど観光資源をばらばらに売り出すことが多く、消費者に与えるインパクトが弱い状況です。最上地域が一体となった展開をする必要があります。

さらに、観光事業や観光の振興に取り組む企業・団体や個人が少ないため、農業や商工業、サービス業など他の産業と連携しながら、地域の総合力を発揮し、「観光産業」を推進していく必要があります。

全国的な知名度のある「真室川音頭」と関連イベントを観光資源として推進してきたものの観光誘客の入り込みは拡大に至っていません。また平成12年以降交流拠点として梅里苑・周辺体験施設を整備してきましたが、近隣類似施設との競合や低迷する経済状況により利用者は伸び悩んでいます。

当町は加無山県立自然公園の山岳、女甕山の大カツラ・滝ノ沢の一本杉といった巨木群、三階滝・土倉の滝といった滝群などの自然資源、伝統芸能や生活文化資源に恵まれており、これらの保全を進めながら活用を図り魅力を創出する必要があります。

ます。

また、食文化資源に恵まれており食材や食文化を基盤として他の資源と連携させた取り組みや、地域の歴史や文化、自然と調和した個性的で魅力ある景観の保全と創造の取り組みなどの活用により「学び、体験、交流」など時代のニーズに応えられるメニュー創出と仕組みづくりを進め観光・交流の振興を図ることが必要です。

Ⅲ 計画の基本理念と基本方針

1 基本理念

人々の観光に対するニーズやライフスタイルが多様化する中、観光の在り方も「周遊型」から「体験型」へと移行しています。このような中で、本町の豊かな自然などの観光資源を活用するとともに、地域の観光資源の再評価や発掘、ネットワーク化に努め、観光客が回遊しやすい周辺環境の充実を図ります。また、地域間競争が強まっていく中、「まむろ川温泉梅里苑」を中核として、真室川ならではの四季折々の食のブランド化やお土産品の開発、農林業や自然環境と組み合わせた体験型観光メニューづくりに努めます。

本町は「真室川音頭」発祥の地であり、真室川町が全国に知れわたった由縁も、真室川音頭があるからこそです。軽快なリズムを多くの方が聞き、口ずさんでもらえるよう、真室川音頭にこだわったPRやイベント、情報発信に心がけ本町のイメージを高めていきます。

真室川ブランドの認定制度の導入により、本町の魅力を伝える特産品を町が認定し、町内にある様々な地域資源の質や価値を高め、その魅力を町内外に発信する仕組みができました。真室川ブランドの出発点は、地域の「ほんもの」を「誇り」と「自信」を持って磨き、示していくことにあります。そうした取組を積み重ねて「継続」することにより、消費者等との「信頼」関係を築いていきます。消費者の「信頼」を獲得することによる販路開拓により、地域の経済と活力向上を目指します。

今後も消費者ニーズの調査研究などを進めながら、地域資源や自然エネルギーを利活用した真室川ブランドを創出していきます。

この計画の計画期間（策定から平成31年度までの概ね5ヵ年）においては、地域あげての観光交流の気運醸成が不可欠であります。そのためには、「観光資源の発掘・磨き上げ」、「地域一体の事業展開」、「観光産業の推進」など地域の諸課題を克服することが不可欠であり、行政と民間がそれぞれの役割を担いながら、官民一体となって強力に取り組んでいく必要があります。

これらの展開により、多様な分野において新たな成功事例をひとつでもふたつでも創出し、その熱意を町・最上地域全体に広げ、年間を通じた賑わいの創出を図っていきます。

2 基本方針

真室川町は町の約9割が山林となっており、甕山、加無山をはじめとする加無山県立自然公園等の山岳、女甕山の大カツラ、滝の沢の一本杉といった巨木群、泡の滝・三階滝・土倉の滝といった滝群、他にも湖沼や湿原といった自然資源や伝承文化などに恵まれ、これら豊かな観光素材を利活用しつつ、大いに外部に発信して行きます。

観光については、施設面では温泉宿泊の観光拠点「梅里苑」、情報発信基地の「森の停車場」、交流促進の場「遊楽館」といった町の観光交流施設を活かしながら各種イベント等を通じて連携をより一層深め、交流を促進してまいります。

イベント面では、春の「梅まつり」・「梅の里マラソン」、夏の「真室川まつり」・「真室川音頭全国大会」、秋の「大収穫祭」や美しい景観として、「紅葉・山野」、冬の「白鳥」・「スキー大会」等を基盤とし、「食」の面でも春の山菜・夏の川魚・秋のキノコ類・冬の促成山菜など、四季折々に自然いっぱいの真室川町の魅力を売込み、6月から9月にかけて実施される山形県の観光PR事業である「DC関連事業」を契機に、より一層の交流人口拡大を目指してまいります。

物産については、従来から取り組んできた事業の継続発展を図るとともに、首都圏・仙台圏での観光物産展や姉妹都市である古河市道の駅への出展など積極的に参加し、町のブランド戦略や6次産業化推進・環境王国事業などとも連携しながら、より効果的な取り組みを目指します。

観光・物産に関わる諸情勢を的確に把握しながら、真室川町の観光物産のさらなる発展を目指し、観光振興の基本理念に基づき、目標達成に向けた基本方針を次のとおり設定し、下記事業を展開します。

(1) 自然・文化資源を活用した観光・交流イベントの造成・情報発信

人材育成と誘客のための仕組みづくりを進め、自然・文化資源を活用した観光・交流イベントの造成、情報発信体制と交流基盤の整備に努め、自然と歴史の宝を各種ツーリズムやトレッキング、山歩き等に活用します。

(2) まむろ川温泉梅里苑を拠点とした交流

まむろ川温泉梅里苑を拠点とした滞在型・体験型観光プラン開発と、梅里苑施設の機能強化、周辺体験エリアの環境整備を図り、観光交流人口の拡大を図ります。

(3) 「真室川音頭」発祥地としてのイメージアップ

「真室川音頭」発祥地としてのイメージアップにつながるよう「真室川音頭」の普及促進を進め、これらを活用し真室川町の観光の魅力を高めます。

3 観光振興計画の目標

以上、三つの基本方針に時代に即した情報発信を絡め観光振興を図ります。そし

て、地域資源を掘り起こし、磨き上げるとともに、核となるべきハードやソフトの具体的メニューを創出し、町、住民、事業者等が一体となった行動を推進します。また、観光振興を図るため、以下の主要施策を設けて取り組みを行い、引き続き27年度の交流人口98.5千人を目指します。

(施策の効果を表す指標)

項 目	現 状 H21	目 標 H27
年間観光客数 (県観光者数調査)	89.5 千人	98.5 千人

(出典：第5次真室川町総合計画)

IV 主要施策の展開

(1) 観光資源の発掘・磨き上げ

① 施策の考え方

観光資源を魅力あるものにするためには、素材そのものの魅力だけでなく、それを編集・加工し付加価値を高めるとともに、効果的に情報を発信していくことが重要である。また、その素材が時代のニーズに合致することも大きな要素となります。

$$\text{魅力ある観光資源} = \text{素材} \times \text{加工} \times \text{情報発信} \times \text{時代のニーズ}$$

真室川町においても「地域ならではの」観光資源の発掘・磨き上げを図りながら、当面、効率的かつ効果的に観光誘客を促進するため、真室川町として地域の強みと思われる分野を重点的に売り出すこととし、地域のイメージアップやブランド力の向上を図っていきます。

② 施策の展開方向

- ・観光資源のデータベース化の推進
- ・観光情報パンフレット・マップの作成及び見直し
- ・観光資源に関するニーズ調査（地元と来町者の意識のギャップなど）の実施
- ・各重点分野での取組みの推進
- ・発信力の高い「大使」によるブログやFBなどSNSを利用した情報発信強化

(2) 着地型観光の推進

① 施策の考え方

近年、グリーンツーリズムやエコツーリズム、農家民宿、文化観光、産業観光、ヘルスツーリズムなどの新たな旅行形態が注目されており、地域が主導して企画していく「着地型観光」の手法により旅行商品化を図っていきます。

② 施策の展開方向

- ・地元の人による旅行企画等（「旅づくり塾」）
- ・おすすめ旅行コース（モデルコース）の確立
- ・旅行エージェントへの対応（意見交換会、現地視察会、エージェント訪問、商品造成の支援のあり方の検討など）
- ・JRとの連携（小さな旅行プランなど）

(3) 最上地域独自の「観光キャンペーン」への参画

① 施策の考え方

最上地域の観光資源について集中的な宣伝・誘客活動を展開するため、最上地域

独自の観光キャンペーンの開催が検討されています。

この観光キャンペーンは、イベントの成果のみに焦点をあてるのではなく、これを機会に地域自らが観光資源の活用など観光交流事業の具体的な検討の契機とし、かつ、その後の積極的な取組みの促進を最大の目的とするものであり、なお、開催にあたっては、JRや旅行エージェンツなどと連携して対応していくこととなっています。その企画に積極的に参画しながら、交流拡大を図っていきます。

② 施策の展開方向

- ・観光交流事業の取組み促進と「もがみ観光博（仮称）」の開催・参画
- ・四季への対応、話題への対応などタイムリーな素材にスポットをあてた観光キャンペーンの展開
- ・山形DCで好評だった時間軸による誘客テーマ「山形で過ごす1日」（朝、昼、夕、夜）による誘客素材へのエントリー
- ・「山形で過ごす1日」という時間軸に加え、新たなテーマを設定することで、ストーリー性があり、複数の地域資源をつないだ誘客企画の開発を検討「真室川で過ごす1日（仮称）」

観光や物産に関連したものを特化・集中させ、交流の拠点となるような整備を行います。

③ 魅力ある地域づくりの推進

- ・学校等での地域の魅力を学ぶ機会を更に充実し、地域団体や観光事業者等とも連携しての具体の交流拡大
- ・豊かな山岳資源や川等の真室川の自然や歴史、文化の魅力を広く町民が知り、新たな観光流動を喚起するための学びと体験の機会の充実
- ・生産現場の苦労話や、希少性の高い話題など様々なストーリーに触れ、町産農産品に対する理解を深める学びと体験の機会の充実
- ・おもてなし最前線に立つ観光関係者を対象とした「つや姫」田植え・稲刈り体験のほか、果樹等の生産現場体験ツアーの計画
- ・観光者がスムーズに観光目的地を訪れることが出来る、わかりやすい、景観等にも配慮した案内表示の整備
- ・高齢者や小さい子ども連れの家族など誰でも安心して利用出来る観光地トイレの整備

V 主要施策における重点プログラム

主要施策は一つ一つが独立しているものでなく、すべてが関連しています。これから主要施策を展開していく上で、核となるものを重点プログラムと位置づけ、その推進を図ることで他の施策も効果的に実施していきます。

①組織強化

魅力ある真室川を全国にPRするのは「人」であり「組織」です。また、観光に訪れた方が接し、そのニーズを満たすのは現地の人であり、各種イベントを運営し成功に導くのは組織です。

観光と物産を振興するにあたり最も重要な要素は、魅力ある人・主体的な組織づくりであると認識し、その部門別の組織強化を図り自立を目指します。

観光組織セミナー	主体的な活動を行うために必要な知識の習得・研修等
特産品販売戦略セミナー	特産品の常設ブース設置や流通確保・営業成果の効果を挙げるための研修等
ボランティアガイドの育成	ボランティアガイドの増員及びネットワーク構築

②観光振興

観光誘客事業により県内外に真室川をPRし、この取り組みを契機とした継続的な交流人口の拡大を目指します。

駅長おすすめの小さな旅	JRと連携した週末日帰りツアー
農家民宿	利用客の拡大

③物産振興

地域の象徴としての役割を担うのが、食・伝統工芸などの特産品です。お土産や飲食店で活用することにより真室川独自の個性を持つ特産品を世に送り出し、その普及を目指します。

物産展への参加	各種物産展での特産品PR
真室川ブランド認定制度	町内生産農産物・加工品PR
6次産業化推進	6次産業化推進に向けた支援協力
環境王国	環境王国との連携
まくらがの里こが	古河市の道の駅での特産品販売

④地域間交流

姉妹都市盟約を結ぶ古河市や、我が町とともに「東北のへそ」を形成する宮城北西・岩手西南・秋田南東地域、県境を峠で接する湯沢市・由利本荘市・大崎市・最上町・金山町との交流を密にし、相互交流を深めていきます。さらに、東京都荒川区や世田谷区との相互交流を図りながら、首都圏との各種交流を目指していきます。

また、最上郡域や山形県域とも積極的に交流・連携を行うことで、より広域なレベルでの集客を目指します。

古河市交流物産展	茨城県古河市（まくらがの里）
もがみ大産業まつり	新庄市ゆめりあ
山形県観光物産市	山形市七日町
東北のへそ観光まつり	仙台市勾当台公園
環境王国	環境王国交流（交流・連携）
荒川区日暮里春まつり	東京都荒川区日暮里駅前イベント広場
世田谷ふるさと区民まつり	東京都世田谷区馬事公苑
せたがや梅まつり	東京都世田谷区羽根木公園

⑤情報発信

情報化社会の現代において、観光情報もその時流に乗ることが求められています。観光パンフレット・インターネットHPを活用し、より幅広い世代、地域へ様々な情報を発信するよう努めます。

また、町外・県外でのイベントに積極的に参加し、真室川の魅力的な情報を提供します。

まつりリーフレット	梅まつり・真室川まつり
テレビ・ラジオ取材	各放送局の取材
音頭むすめ	2名 イベントでのPR活動
東京アンテナショップ物産展	東京都中央区銀座 年3回
観光パンフレット	町内外の各施設に設置
町ホームページ	イベントの紹介 随時更新
真室川ブランドホームページ	認定品の紹介 随時更新
環境王国ホームページ	
案内看板設置	観光スポット周辺に設置
観光物産協会フェースブック	イベントの紹介 随時更新

⑥四季のイベント

1年を通じて様々なイベントを企画し、地域を盛り上げるとともに、交流人口の増加を目指します。

巨木・滝・沼・清水や動植物などの観光資源を磨き上げるとともに、「農業地帯」「田舎」といったイメージを長所と捉え、都市部からの誘客を図ります。企画に工夫を凝らしながら、ツアー商品造成を目指します。

梅まつり	観梅会・梅の里マラソン大会	春
真室川まつり	音頭パレード・花火大会 他	春
甕山山開き	関係団体との共催、連携	春
梅の里溪流つり大会	まむろ川温泉梅里苑主催	夏
真室川音頭全国大会	真室川音頭保存会共催	夏
真室川町アユ釣り大会	最上漁業協同組合主催	秋
まむろがわ逸品展	真室川ブランド認定品・新開発特産品 披露イベント	秋
大収穫祭	認定農業者連絡協議会主催	秋
イルミネーションコンテスト	町内イルミネーションの競演（ネット）	冬
冬の花火大会	冬季イベントとの連携	冬
駅長おすすめの小さな旅	J R 東日本連携企画	通年

VI 計画の実現のために

1 住民との連携と協働の強化

「住民が主役」の考え方を大切にしながら、町、住民、事業者等が農、商、工、観それぞれの得意分野を活かしあい、計画の推進力と効果を高める連携と協働を強化していきます。

(1) 住民の役割

- ・住民は真室川町を知り、真室川町の魅力を支える真の主人公であり、旅行者と地域との交流促進に自発的に関わっていきます。
- ・観光まちづくり活動に積極的に参加し、地域づくりやまちづくりなど真室川町の魅力向上に主体的に取り組んでいきます。
- ・真室川町観光振興計画の推進にあたっては、住民一人ひとりが旅行者を温かく迎えらるよう、もてなし力の向上を図ります。

(2) 観光関連事業者の役割

- ・観光関連事業者は観光推進の主体的役割を担います。
- ・観光関連事業者間の連携・協力体制の充実を図るとともに、他産業との連携を進めていきます。
- ・真室川町観光振興計画の推進にあたっては、時代のニーズに応えるメニューづくりや施設整備などを行うとともに、観光客に対するおもてなしの心を育む人材の確保・育成を進めていきます。

(3) 真室川町観光物産協会の役割

- ・真室川町観光物産協会は情報提供や誘客促進のためのPR活動等、観光振興事業を積極的に展開する主体となります。
- ・観光関連事業者などの接遇やサービス向上のため、研修制度の充実を図ります。真室川町観光振興計画を推進するにあたっては、具体的戦略に積極的に関与し、実施に向けて中心的な役割となります。

(4) 真室川町の役割

- ・真室川町は観光地の整備運営や情報の発信など、さまざまな取組みの実施主体に対するバックアップなどを行っていきます。
- ・町民参加の観光まちづくり活動を支援し、市民の観光に対する理解の促進を図ります。
- ・国や県、他市町村との連絡調整を図るとともに、近隣市町村等と連携した広域観光を推進していきます。
- ・真室川町観光振興計画の推進にあたっては、町観光物産協会などと連携し、具体的戦略を実施していきます。

2 具体的行動について

(1) 事業の具体的推進

- ・この計画を推進するために、真室川町観光物産協会に専門部会を設置し、実施手法の検討とその実践を行います。「V 主要施策における重点プログラム」を6点掲げているので、専門部会が、それぞれのテーマに沿って行動プログラムを策定し、町、住民、事業者等が一体となって事業を推進します。

(2) 進行管理の推進

- ・真室川町観光物産協会がこの計画の進行管理を行います。
PDCA（Plan計画→Do実行→Check評価→Action改善）サイクルを絶えず実践しながら、社会情勢の変化や新たな課題などに適切に対応し、計画を着実かつ的確に推進していきます。

(3) 観光戦略推進会議（仮称）の設置

- ・住民、住民団体、ボランティア団体、観光関連団体・事業者、真室川町、真室川町観光物産協会などで構成し、各々が連携して計画を推進する協力体制を強化します。

(4) 真室川町観光物産協会の機能強化

- ・真室川町全体の観光振興を図る総合的な組織を目指します。
- ・真室川町観光物産協会は、観光PRやイベント企画などに主体的に取り組みます。
- ・効果的な運営を行うために組織体制の強化・拡充が必要であり、法人化などを視野に入れた組織改革を検討します。

資料

真室川町観光振興計画関連 ～滞在型「まむろがわツアー」モデルコース～(1泊2日、日帰り対応可能)

①森(巨木)巡りコース【初夏-初秋】要案内人&コーディネーター

～巨木資源活用と森林文化の体験とまなび～

女籠山の大カツラ(周辺巡り/大清水・仏陀樹・男籠山頂・名勝沼・ウィルソンカツラ)＋梅里苑入浴・宿泊
＋トロッコ列車＋産直＋熊野神社大杉＋歴史民俗資料館＋商店街
※滝の沢の一本杉、その他の巨木資源、森林資源も活用

②農と自然満喫コース【通年】要受入農家&コーディネーター・・・宿泊/梅里苑 or コテージ or 農家民宿

～季節の農業体験と、町内資源の組み合わせ～ 「グリーンツーリズム系」

春／山菜採取・田植え・各種伝承野菜農家

食材加工体験＋食事体験＋宿泊＋産直＋商店街＋資料館＋トレッキング

夏／森の家(芋植付)・各種伝承野菜農家・やな漁・養蜂・釣り堀

食材加工体験＋食事体験＋宿泊＋産直＋商店街＋資料館＋トレッキング(滝・湿原)

秋／稲刈り・森の家(芋収穫)・各種伝承野菜農家・きのこ採取・山ぶどう

食材加工体験＋食事体験＋宿泊＋産直＋商店街＋資料館＋トレッキング(紅葉狩)

冬／促成山菜栽培農家・各種伝承野菜農家・ため池(白鳥)

食材加工体験＋食事体験＋宿泊＋産直＋商店街＋資料館＋トレッキング(かんじき・スノーモバイル)

③歴史巡りコース【降雪期以外が適】要案内人&コーディネーター・・・対象がごく限られるコース

～真室川の歴史(縄文～近代)を辿り魅力に触れる～

正源寺(山門・土偶)＋薬師堂＋鮭延城址(展望)＋飛行場跡＋寺社天井画 etc
宿泊＋真室川音頭体験(昭和の真室川の象徴)＋資料館＋土産(産直・商店街)

④手わざ体験習得コース【通年】要案内人・指導者&コーディネーター・・・合宿企画としても有望

～生活文化・民俗習俗・伝統・手わざを知る～

手仕事／藁細工＋つる細工(1泊2日以上の場合も可能)

食文化／保存食作り(干し柿・凍み大根・芋がら・塩蔵・乾物)＋加工体験＋食事
芸 能／昔語り＋番楽＋童唄＋囃子＋民謡&舞踊(真室川音頭・あがらしやれ等)

⑤既存イベントとの複合コース

～既存イベントとの組み合わせ～

各種町イベントと上記①～⑤のコース組合せによる滞在型企画の創出

梅まつり・真室川まつり・つり大会・音頭大会・収穫祭・逸品展・番楽フェス

(参考)

◆観光ボランティアガイド加盟団体(登録は4団体)

・巨木の森ガイド会(籠山研究会)・梅の里雪遊会・真室川民話の会・真室川町歴史研究会

真室川町観光振興計画策定の経過

平成26年6月20日 (森の停車場)	真室川町観光物産協会役員会 ・観光物産協会内に「観光振興計画検討部会」を設置（観光部会に付託） ・町と協会が共同して作成に取り組むことを確認。
平成26年6月20日 (森の停車場)	第1回観光振興計画検討部会 ・策定の基本方針等
平成26年10月2日 (役場3階会議室)	第2回観光振興計画検討部会 ・観光振興計画主要施策の検証
平成26年11月17日 (役場3階会議室)	第3回観光振興計画検討部会 ・観光振興計画主要施策検討表取りまとめ ・ポイント、柱になるテーマによる意見交換
平成27年 2月3 日 (水道管理棟会議室)	第4回観光振興計画検討部会 ・観光振興計画素案について ・基本理念、基本方針、重点プログラムについて ・観光振興計画素案の取りまとめ
平成27年3月3日	役場各課との調整、意見徴収依頼 ・真室川町観光振興計画（案）について
平成27年3月11日	役場各課との調整、意見徴収取りまとめ 終了
平成27年3月末	町、住民、事業者等への周知 ・観光振興計画公表（町ホームページ）

真室川町観光振興計画検討部会(観光物産協会観光部会) 体制

役 職	氏 名	地 区 名	団 体 名
1 部会長	庄司 光徳	下 村	庄司工業株式会社
2 理事	阿部 圭祐	本町	安藤商会
3 理事	大沢 豊国	栄町	大沢呉服店
4 理事	木田 欣一	新町	梅の里あがらしやれ
5 理事	姉崎 進	釜淵四	釜淵ばやし保存会
6 理事	釵持 順子	宮沢	真室川音頭保存会
7 理事	齋藤 哲也	新町	(株)マルコウ環境
8 理事	佐藤 敬子	東町二	真室川町連合婦人会

【部会外参加者】

役 職	氏 名	地 区 名	団 体 名
会長	庄司 安男	末広町二	真室川町観光物産協会
副会長	沓澤 康平	東町一	真室川町観光物産協会 (物産部会長)

【参考意見聴取団体】

役 職	氏 名	分 野	団 体 名
観光誘客 プロデューサー	伊東洋	観光誘客	最上地域観光協議会
支配人	佐藤光子	宿泊施設	まむろ川温泉梅里苑
代表	大沼有一	宿泊施設	農家民宿 はちみつ屋
代表	佐藤栄子	宿泊施設	農家民宿 果菜里庵
代表	佐藤春樹	宿泊施設	農家民宿 森の家
会長	高橋幸生	案内人	甕山探究会
会長	佐藤広文	案内人	梅の里雪遊会
会長	高橋重也	案内人	民話の会
会長	杉原実	案内人	歴史研究会
店長	高橋健一	産直施設	産直あさひ
組合長	高橋良和	産直施設	産直まごころ工房
代表	高橋幸穂	産直施設	六葉会
常務理事	杉原義美	関連団体	最上漁協協同組合
支部長	高橋 智之	関連団体	もがみ北部商工会真室川支部
副組合長	佐藤昭夫	関連団体	あがらしやれ真室川
会長	小松正弘	関連団体	ふるさと山の会
代表	小野喜栄	関連団体	きのこオーナー
代表	庄司 和敏	関連団体	のぞきわらび園
代表	高橋 喜久美	関連団体	中村湿原を守る会
管理人	沓澤悌一	関連団体	生涯学習センター

山形県最上郡真室川町

〒999-5312 山形県最上郡真室川町大字新町127番5
電 話 0233-62-2111
FAX 0233-62-2731